



2026年3月31日

各位

会社名 KDDI株式会社
代表者名 代表取締役社長CEO 松田 浩路
(コード番号：9433 東証プライム市場)
問合せ先 コーポレート統括本部
総務本部長 中里 靖夫
(TEL 03-3347-0077)

過年度の内部統制報告書の訂正報告書の提出及び
財務報告に係る内部統制の開示すべき重要な不備に関するお知らせ

本日、当社は金融商品取引法第24条の4の5第1項に基づき、関東財務局に提出した過年度の内部統制報告書において開示すべき重要な不備がある旨の記載をした内部統制報告書の訂正報告書を関東財務局に本日提出いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 開示すべき重要な不備の内容

当社は、連結子会社であるビッグロブ株式会社及び同社の子会社であるジー・プラン株式会社（以下、併せて「本件子会社」といいます。）の広告代理事業における取引の妥当性について、社内監査役及び内部監査部門による調査を実施しておりましたが、当社の会計監査人からも当該取引の妥当性に関する指摘を受け、社内監査役が主導して外部の公認会計士を交えた調査を実施しました。その後、2025年12月中旬になって一部の広告代理店からの入金が遅延したことを契機に、売上高等が過大に計上されていた可能性が判明しました。これを受け、当社は外部の弁護士・公認会計士を含む社内調査チームを設置して追加の調査を進めた結果、2026年1月上旬に広告代理事業の一部に本件子会社の社員による不適切な取引の疑いが確認されたため、事実関係やその原因等を明らかにするためには、専門性及び客観性のより高い調査を実施する必要があると判断し、特別調査委員会を設置いたしました。当社は本日、特別調査委員会の調査報告書を受領し、同報告書に記載された調査結果から、過年度より取引実体の無い架空循環取引が行われていたことが判明したため、本件子会社の広告代理事業に関連した売上高及び売上原価等を取り消し処理するとともに、2023年3月期から2025年3月期に遡って修正する必要があると判断しました。

当社は、本件架空循環取引が長期間にわたり行われてきた原因及び内部統制上の不備として、本件子会社における権限分掌に関連する全社的な内部統制（統制活動）が不十分であったこと、及び、本件子会社の本広告代理事業における仕入先への発注から検収に至る業務プロセスにおいて不正リスクを考慮した内部統制の整備及び運用が不十分であったことを認識しております。当社は、これらの不備は財務報告に重要な影響を及ぼしており、開示すべき重要な不備に該当すると判断しました。

2. 事業年度末日まで是正されなかった理由

上記の財務報告に係る内部統制の開示すべき重要な不備につきましては、当該不備の発覚が訂正対象となるそれぞれの事業年度の末日後であったため、各事業年度の末日までには是正することができませんでした。

3. 開示すべき重要な不備の是正方針

当社は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用の重要性を認識しており、特別調査委員会の提言を踏まえ、開示すべき重要な不備を是正し、適切な内部統制を整備し運用するために、以下の取り組みを行ってまいります。

【再発防止策】

1. KDDIグループにおける取引先管理の強化
2. KDDIグループにおける購買業務の権限分離・検収業務の適正化
3. KDDIグループにおける新規事業に対するリスク管理とキャッシュフロー管理の強化
4. KDDIグループ各社の牽制・監査機能及びグループファイナンス先の財務管理の強化
5. 再発防止策のKDDIグループ全体での浸透と持続的な実行

6. 高い倫理観と健全な企業風土の醸成

7. グループガバナンス強化に向けたグループ経営戦略の検討

4. 訂正の対象となる内部統制報告書

第39期 内部統制報告書（自2022年4月1日至2023年3月31日）

第40期 内部統制報告書（自2023年4月1日至2024年3月31日）

第41期 内部統制報告書（自2024年4月1日至2025年3月31日）

5. 訂正の内容

上記の各内部統制報告書の記載事項のうち、3【評価結果に関する事項】を以下のとおり訂正いたします。訂正箇所は____線を付して表示しております。

3【評価結果に関する事項】

(訂正前)

上記の評価の結果、基準日現在において、当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

(訂正後)

下記に記載した財務報告に係る内部統制の不備は、財務報告の適正性に重要な影響を及ぼすものであり、開示すべき重要な不備に該当すると判断しました。

したがって、基準日現在において、当社グループの財務報告に係る内部統制は有効ではないと判断しました。

記

当社は、連結子会社であるビッグロブ株式会社及び同社の子会社であるジー・プラン株式会社（以下、併せて「本件子会社」といいます。）の広告代理事業における取引の妥当性について、社内監査役及び内部監査部門による調査を実施しておりましたが、当社の会計監査人からも当該取引の妥当性に関する指摘を受け、社内監査役が主導して外部の公認会計士を交えた調査を実施しました。その後、2025年12月中旬になって一部の広告代理店からの入金が遅延したことを契機に、売上高等が過大に計上されていた可能性が判明しました。これを受け、当社は外部の弁護士・公認会計士を含む社内調査チームを設置して追加の調査を進めた結果、2026年1月上旬に広告代理事業の一部に本件子会社の社員による不適切な取引の疑いが確認されたため、事実関係やその原因等を明らかにするためには、専門性及び客観性のより高い調査を実施する必要があると判断し、特別調査委員会を設置いたしました。

当社は本日、特別調査委員会の調査報告書を受領し、同報告書に記載された調査結果から、過年度より取引実体の無い架空循環取引が行われていたことが判明したため、本件子会社の広告代理事業に関連した売上高及び売上原価等を取り消し処理するとともに、過年度に遡って修正する必要があると判断しました。

当社は、この会計処理の修正のため、過年度の決算を訂正するとともに、2023年3月期から2025年3月期の有価証券報告書、2024年3月期第1四半期から同3月期第3四半期までの四半期報告書及び、2025年3月期から2026年3月期までの半期報告書について訂正報告書を提出いたしました。

当社は、本件架空循環取引が長期間にわたり行われてきた原因及び内部統制上の不備として、以下を認識しております。

本件子会社における権限分掌に関連する全社的な内部統制（統制活動）が不十分であったこと、及び、本件子会社の本広告代理事業における仕入先への発注から検収に至る業務プロセスにおいて不正リスクを考慮した内部統制の整備及び運用が不十分であったこと。

当社は、これらの不備は財務報告に重要な影響を及ぼしており、開示すべき重要な不備に該当すると判断しました。

上記事実は当事業年度末日後に発覚したため、当該不備を当事業年度末日までには是正することができませんでした。

なお、上記の開示すべき重要な不備に起因する必要な修正事項は、全て各事業年度の有価証券報告書、四半期報告書及び半期報告書の訂正報告書に係る連結財務諸表、財務諸表、要約四半期連結財務諸表及び要約中間連結財務諸表に反映しております。

当社は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用の重要性を認識しており、開示すべき重要な不備を是正し、適切な内部統制を整備し運用するために、以下の取り組みを行ってまいります。

【再発防止策】

1. KDDI グループにおける取引先管理の強化
2. KDDI グループにおける購買業務の権限分離・検収業務の適正化
3. KDDI グループにおける新規事業に対するリスク管理とキャッシュフロー管理の強化
4. KDDI グループ各社の牽制・監査機能及びグループファイナンス先の財務管理の強化
5. 再発防止策の KDDI グループ全体での浸透と持続的な実行
6. 高い倫理観と健全な企業風土の醸成
7. グループガバナンス強化に向けたグループ経営戦略の検討

6. 連結財務諸表及び財務諸表に与える影響

上記の開示すべき重要な不備に起因する必要な修正事項は、全て各事業年度の有価証券報告書、四半期報告書及び半期報告書の訂正報告書に係る連結財務諸表、財務諸表、要約四半期連結財務諸表及び要約中間連結財務諸表に反映しております。

7. 連結財務諸表及び財務諸表の監査報告における監査意見

訂正対象の連結会計年度及び事業年度における連結財務諸表及び財務諸表の監査報告における監査意見は、無限定適正意見であります。

以上